松山空港ビル㈱　平成２０年度　２次評価

〔出資法人の自主性・自律性の向上に向けた取組〕

○経営基盤の充実・強化

・松山空港における 19 年度乗降客数は、18 年度の 275 万人に比べ、19 年度は国内線、国際線ともに減少に転じたことから、266 万人と 4 年ぶりに減少している。また、原油価格高騰に伴う航空会社の経営圧迫や高速バス・ＪＲとの競争激化等、引続き乗降客数の確保の見通しには厳しいものが予想される。

・当法人の経営基盤の柱である「売店収入」・「テナント収入」・「施設使用料収入」は、基本的にはこの乗降客数に大きく左右されるところではあるが、19 年度の当期純利益は、営業収益が前年度比 1.1%減少したものの、諸経費の削減に努めた結果、前年度比 9.3%増の 214,415 千円となっており、乗降客数が減少するという状況にありながらも利益を確保するといった経営努力は評価できる。

・具体的な経営努力（収入増加に向けた取組み）としては、マスコミ等でも話題となっている「蛇口からポンジュース（初回：20 年 1 月、現在は毎月第 3 日曜日実施）」をはじめとした「イベントの充実」が挙げられ、19 年度イベント売上高目標額 40,200 千円に対し、48,857 千円の実績を残している。また、20 年度においては、客動線変化に対応した新規店舗の開設や会社創立 30 周年記念のイベントなどを実施しているところである。

・このことについては、改革実施計画の取組指標に「イベント開催日数」及び「イベント売上高」を設定したことにも表れているように、乗降客だけに頼らない積極的な経営姿勢が示されているものと受け取れる。引続き法人としての活動を対外的にアピールできるような県民にわかりやすい指標の設定について、検討していただきたい。

・今後とも、県をはじめとする関係機関との連携強化に努めつつ、空港の利用促進に伴う安定的な経営が維持できるよう、イベントの充実をはじめとする魅力ある空港づくりに取組んでいただきたい。

・また、点検評価当初から提言している「将来の収益計画の策定」については、法人独自で空港整備のための積立金（20 年度 1 億円　累計 9 億円）を計上するなどの対策を講じているものの、法人経営の将来に大きな影響を及ぼす「空港全体の整備計画（国所管事項）」が未だ作成されていないため、現段階では難しいことから、国からの計画が示された時点で策定していただきたい。

【収入増加に向けた取組み】

・「蛇口からポンジュース」をはじめとした「イベントの充実」を図ることによる売上高の維持向上

・客動線変化に対応した新規店舗の開設や既存店舗の什器レイアウト変更による売上増加

〔県の関与の適正化に向けた取組〕

○財政的関与の見直し

・点検評価当初に指摘した「国際線ターミナルビル建設費借入金に係る利子補給」については、ターミナルビル建設時に国から国際線に係る収支が赤字の間は利子補給を行うよう条件を付された経緯があること、また、同様に当初指摘した「国際定期航空路線運航会社の空港施設使用料に係る当法人の減免措置相当額の県負担」については、国際定期航空路線を維持するために必要な措置であることから、法人全体では黒字が続いている状況ではあるものの、当部会としてはやむを得ないものと判断したい。

〔総合的評価〕

・乗降客数の安定確保の見通しは厳しいものと予想される中、今後とも、安定的な経営を行うため空港利用促進による売上高の維持・向上が図られるよう、引続きイベントの実施など魅力ある空港づくりに取組み、将来の設備投資に向けて財政基盤の強化に努めること。

・将来の収益計画については、法人経営の将来に大きな影響を及ぼす「空港全体の整備計画（国所管事項）」が未定であることから、現段階での策定は難しいが、国からの計画が示された段階で作成すること。